

日持ちする！コマツナ・チンゲンサイづくり

栽培のポイント

●アブラナ科の植物は、根コブ病の発生に注意！
特にアブラナ科を連作している場所では根コブ病の対策を行ってください。根コブ病は土壌 pH が低いところで多発します。兆候が見られる畑では、pH を 7.2~7.4 に上げることや、排水性を高める土作りが対策になります。
ただし、pH を上げ過ぎるとマンガン・ホウ素欠乏を引き起こすので注意が必要です。



●MリンPKで日持ち向上！

MリンPKを効かせることによって窒素の消化が促進され、葉の厚みが増し、苦味が少なくなり、日持ちが向上します。間延びしてしまったら、Pフォスタやリーフアップバリアなどの葉面散布材で調整すると、締まった作物体にすることができます。

●チッ素は長効きのボカシ肥を主体に！

品質を維持するためには、窒素を切らさないようにしましょう。ゆっくりと窒素が効くボカシ肥（MBシリーズ）の使用が効果的です。

元肥の施肥提案（1a = 30坪）

資材名	寒冷地	中間地	温暖地
MリンPK	2~3kg	2~3kg	2~3kg
バクヤーゼK	20kg	18kg	15kg
尿素	1~2kg	0~1kg	—

尿素有量は天候や地力によって加減してください

直接、播種する作物

コマツナやチンゲンサイ、ホウレンソウなど、畑に直接種をまく作物は、発芽揃いも大切なポイント。
発芽不良、不揃いの原因は土作りの不備によるもの。種まき2週間前までにはバクヤーゼKで土作りをしておきましょう。



窒素の効き過ぎ

窒素が効き過ぎているとカビや細菌系の病気にかかりやすくなります。
その場合、リーフアップバリアやPフォスタを3~5日おきに500倍液で散布して、窒素消化を早めてください。